

# 年間活動報告(案)

2017 年度(2017 年 7 月~2018 年 6 月)



一般社団法人あいあいネット

(いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク)

〒231-0003 横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター内

Tel 050-3754-5970 URL: <http://www.i-i-net.org/>

## 1. いりあい交流

2016年度の「いりあい交流」は、前年度までの取り組みに引き続き、以下の活動を展開することができました。

### <インドネシアでの活動>

2012年度から実施している、インドネシアの高校生を対象とした「聞き書き」研修を、NPO 共存の森ネットワークとの協働で実施しました。2017年度はこれまで活動の拠点としてきたボゴールと中スラウェシに加え、中カリマンタン州パランカラヤ市政府、ゴロンタロ州との連携を進めることができました。具体的には下記のとおりです。

7月にボゴール農業大学附属コルニタ高校で、ボゴール、中スラウェシ、パランカラヤ市の高校生、計45名を対象とした「聞き書き」研修を実施するとともに、環境・森林大臣、教育文化省文化局長らに「聞き書き」の取り組みを紹介し、政府との連携の可能性を模索した。12月には聞き書き研修参加生徒による作品を審査し、聞き書きコンテストを実施し、すべての作品をとりまとめた聞き書き作品集を出版した。2018年2月には、中カリマンタン州パランカラヤ市政府との共催で、聞き書きセミナーと聞き書き研修を開催した。また、3月にはゴロンタロ国立大学にて、ゴロンタロ州内の高校教員を対象に聞き書き説明会を開催した。

### <日本国内での活動>

## 2. 西部バリ国立公園プロジェクト

2012年12月から始まったJICA草の根技術協力プロジェクトの第二フェーズ「自然と人間の共存を目指し、公園現場事務所を拠点とした、コミュニティ・国立公園協働活動促進手法の深化と普及」は、2016年11月に4年の期間を終え、JICA横浜からも高い評価をいただきましたが、2017年4月からは同地域を対象とした地球環境基金（独立行政法人環境再生保全機構）の助成が「カンムリシロムク翔び交う里」を目指すインドネシア・バリ島西部の地元住民・行政・企業の協働による、自然と経済の共生した地域づくり」プロジェクトとして始まりました。これは西部バリ国立公園とその周辺地域において、「カンムリシロムクの野生復帰」をテコにして、多様な関係者の協働による観光を通じた地域振興を目指すものです。2017年度は同国立公園所長の急逝による空席期間があったことで、現地での活動に遅れがでしたが、10月に赴任した新任所長は以前同公園の課長を務めていて地域住民へのファシリテーションに理解がある方で、公園と住民や関係者との協働を目指す活動を全面的に支援してくれています。こうした中で、公園周辺村の一つであるプリンビンサリ村ではカンムリシロムクの飼育下繁殖と放鳥が始まり、他の村でも住民による飼育下繁殖の準備が進みました。また2018年には、公園を管轄する環境林業省自然資源生態系保全総局による「ロールモデル」策定の対象として「住民との協働によるカンムリシロムク村落ツーリズム振興」と「協働によるゴミ処理の進展」の2つが指定されたこともあり、複数の村を横断したツーリズム振興に向けたワークショップや、関係者を巻き込んだツーリズム振興

委員会の結成等が進んでいます。

### 3. 地域に学ぶ研修事業

あいあいネットが受託する JICA 横浜の課題別研修「住民主体のコミュニティ開発」は 2017 年 6 月 26 日～7 月 26 日（A コース）と、2018 年 1 月 30 日～2 月 28 日（B コース）の 2 コースが実施されました。A コースは 5 か国 7 名の研修員に加えて JDS 留学生 2 名が山梨県上野原市や横浜市でのフィールドワークに参加し、出身国や所属先の多様さを背景に豊かなまなびあいをおこなうことができました。ただ、勤務地がインターネットアクセスが不安定な地方や紛争地の者が多かったことと、天災や長期の海外出張で連絡が困難になった者がいたことから、帰国後の活動のフォローアップと最終レポートの回収には困難をきたしました。B コースは 7 か国 9 名を受け入れ、初めての試みとして鹿児島県奄美群島の徳之島で 10 日間のフィールドワークを行いました。島では NPO 徳之島虹の会や、各集落で活動する地元グループ及び島内 3 町の役場の皆さまが実行委員会を結成していただき、島内各集落や国立公園内でのフィールドワークに加えて学校訪問、役場の若手職員との意見交換等、大変充実したプログラムを行うことができました。また横浜市内のフィールドワークでは千丸台地区社協の活動についてじっくりお話を聴くことができました。

2017 年度はあいあいネットとして初めて JICA 横浜の青年研修を受け入れました。インドネシアから 12 名の青年リーダー（国や地方の行政官）が来日し、11 月 27 日～12 月 15 日のスケジュールで住民と行政の協働をテーマにコースを実施しました。フィールドワークは神奈川県内に限定し、県の三浦半島振興、逗子市の市民協働、横須賀の農業者や漁業者の方々の活動等から学ぶことができました。

なお、前年度に引き続き実施する予定であった、帰国研修員へのフォローアップ研修（インドネシア・西部バリ国立公園をフィールド）は、現地の火山噴火により残念ながら実施延期となりました。

### 4. その他の活動と組織・広報

- 横浜 NGO ネットワーク（YNN）が JICA 横浜と実施する NGO 人材育成研修（つながり・まなびあい・ひろがる＝TMH 研修）に、当会から 3 名がファシリテーターとして企画・実施に協力しました。
- 前年に引き続き、「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議（ESD-J）に当会役員の壽賀一仁が理事として参加しました。
- 前年度に引き続き、横浜 NGO ネットワーク（YNN）に、当会役員の山田理恵が理事として参加しました。
- あいあいネット事務局は前年度後半に引き続き、非常勤で役員が担う体制となりました。そのため、ホームページ等の更新や年次報告書作成の作業に遅れが生じています。

以上